



# 「無防備で 本物の平和をつくる」 札幌市民の願いが 署名を成功させた!

**札幌市民の平和への強い希望と  
底力を見せた一ヶ月間の直接請  
求署名運動**

9月14日(金)まだ、夏の暑さが残る札幌で、直接請求署名がスタートしました。飛び出し4日間で4,350筆と当初の不安をぬぐうスタートでした。しかしその後の週末は1,000筆をこえるもの、平日は最低420筆(9/27)まで落ち込み危機感をつのらせます。残り10日となった9/16、16,718筆(法定数31200筆の53% 10/4段階)で「ピンチ!助けて」を連日のメールやファクスニュースで連発しました。しかし、その後の札幌市民の立ち上がり、自主的な署名収集は驚異的で目を見張るものがありました。10月5日から13日までの9日間で、なんと20,282筆を積み上げたのです。

これは、札幌市民が平和への強い願い、戦争国家への拒否を無防備平和条例という市民の対案に有権者の権利行使した結果でした。そして、それを掘り起こした札幌市民、道内外の支援の力の結実でした。

**札幌市で13年ぶりに成立する  
直接請求署名の特筆すべき成果**

この署名では本当にたくさんの

市民の声が届けられました。「この署名と同じ思いの方はたくさんいらつしやいます。どうしたらよいのかわからず、いらだっている方がほとんどなのだと思うのです。」(厚別区)「憲法9条が守られていないので、自分たちの住んでいる町から守らせる条例なのですね。頑張ってください。」(南区)「3人の子を持つ母親です。子どもたちに人殺しをさせたくない。戦争で悲しい思いをさせたくない」と切に思います。憲法9条も含め、改憲にも反対で同じ考えをもつ人と手をつないでおくことが大切なのかなと思いつつ、なかなか行動の機会がありませんでした。このような機会を設けて下さってありがとうございます。」(北区)

## 現職自衛官も署名

また、少なくとも現職、家族の自衛隊関係者の署名は大きな特色です。「イラク派兵はおかしい」「自衛隊員や家族も守る署名」との理解が示され、元自衛官の若い女性は「自衛隊にいたからよけいにこの署名は大事と思う」と進んで署名をして下さりました。

憲法を変えて戦争に向かう動きが心配だ、平和のための良い運動だと思ふ...と、多くの市民が進ん

で署名しました。それは、「無防備はだめ、自衛は必要」という人たちと議論し、戦争をしてはならないという点では納得されたことや、チラシの「自衛隊は災害救助隊に」をみて共感される方が非常に多くいたことに示されています。こうした、多くの市民一人ひとりの立ち上がりを作り出した平和・無防備条例直接請求署名は、札幌市で13年ぶりに直接請求を成功させ、札幌市民運動史上に特筆すべき成果を残したと言えます。



※以下、一ヶ月間を振り返り、第二ステージへの思いを札幌市民の会の谷百合子さんに綴ってもらいました。